

令和元年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和元年10月9日(水) 14時00分～15時30分
 場所 兵庫県尼崎総合庁舎 別館2階大会議室

■資料の確認/事務局

【資料】

資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

資料2 エピソードによる評価について

資料3 「尼崎21世紀の森づくり行動計画(改訂版)」の中間年評価について

【参考資料】

参考資料1 平成30年度 第2回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

参考資料2 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱

■委員改選に伴う会長選出

任期満了に伴う委員改選があったため、互選により、会長を選出。

■会長による開会の挨拶

尼崎21世紀の森づくりは、阪神淡路大震災後、伊藤滋先生を兵庫県にお招きし、震災復興に向け、100年かけて森をつくることを協議したことからスタートした。引き続き森づくりの取組を頑張って進めていただきたい。

また、本日午前に関西広域連合の環境委員会の会合があり、その場で尼崎の21世紀の森づくりをPRさせていただいた。関西広域連合の関係府県からますます注目されることになればよいと思う。

■報告事項(1)「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

○資料説明(事務局)

資料1「尼崎21世紀の森構想」の取組状況をもとに、以下の内容を事務局より説明。

- 1) 尼崎の森中央緑地の整備状況について
- 2) 平成31年3月以降の主なイベントなど
- 3) 緑も水辺も育む賞について
- 4) KBS(韓国放送公社)による尼崎21世紀の森づくりの取材に関する報告について
- 5) G20への尼崎市立成良中学校の参加について

○意見交換

委員：尼崎の森中央緑地において、初期に植樹を行った樹木は、13年経って8m高さになっている。アマフォレストの会では、イベント時に森の見学会を開催し、参加者の案内を行っている。今回の協議会で紹介されたイベントも含め、全てのイベントで森の見学会をいろいろな人が参加して実施することを検討してほしい。

■報告事項（2）エピソードによる評価について

○資料説明（事務局）

資料2「エピソードによる評価について」をもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員：5月に尼崎の森中央緑地で実施した「森の文化祭」でエピソード評価を 実施しようとして試みたが、主催者側である地域住民から意図が分かりにくいなどの意見が多く実施できなかった。社会福祉協議会大庄支部が中心となった地元のイベントに対して「工業都市を感じる」への評価項目は地域住民にはなかなか理解されなかった。エピソードによる評価は、全てのイベントでアンケートを実施する予定か。

事務局：今年度の試行的な取組として、構想エリア内で開催され、尼崎の21世紀の森構想の推進に寄与すると考えられるイベントについて実施する予定である。車の展示など場所貸しのイベントについては実施しない。

委員：尼崎21世紀の森づくり行動計画を地域の人々にわかってもらえるようにすれば、「工業都市を感じる」の評価を得るために、企業の人々がイベントに関わる必要性等を地域住民に説明しやすくなる。

委員：p13のレーダーチャートのグラフについて説明いただきたい。評価のコメントで主催者が感じて欲しいことと参加者の感じたことが一致している内容をどのよう理解すればよいか。

事務局：主催者と参加者のポイント数が一致しているわけではないが、レーダーチャートが右上部に傾くなど形が概ね一致していることからそのように評価している。

会長：補足すると主催者が感じて欲しいことと参加者の感じたことの傾向が一致していることである。

委員：大きなイベントほど主催者と参加者の評価の差が大きくなる可能性があるかもしれない。今後アンケートの試行を続けていく中で、アクティビティシートの項目を見直す必要があるかもしれない。

会長：事務局は、エピソード評価に関するチラシの内容等を中心に引き続き検討いただきたい。

■協議事項（1）「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」の中間年評価について

○資料説明（事務局）

資料3「「尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）」の中間年評価について」をもとに事務局より資料説明。

○意見交換

委員：GIS（地理情報システム）を使用して、植樹した木を記録するということがどのようなものか。

事務局：当初、GIS（地理情報システム）により、座標を用いて植樹した木を記録するシステムをつくること想定していた。しかし現在、植樹した木の記録は図面上にプロットするなど紙ベースで作成しており、その内容で目的は十分達成できるものと考えている。

会長：GIS（地理情報システム）のソフトは、構想策定当時と比較して安価になっている。また、最近ではスマホで撮影すると花や木の名前がわかるソフトがあり、同じようにスマホで撮影するといつ誰が植えた樹木などの情報等の記録について検討を進めてもよいかもかもしれない。

委員：企業の森づくりについて、現在、森づくり定例活動には個人で参加する企業の従業員が増えている。第1日曜日に開催される定例活動ではあるが、現在参加者が100名を超えている。定例活動の実施当初は40～50人であった。これまでの森づくり定例活動の経験から、企業単位で森づくりに参加することは、企業にとってハードルが高いようである。しかし、個人での活動は参加しやすいようなので、個人単位で森づくりに参加できる受け入れ体制が、尼崎の森中央緑地にあることを企業にもっとPRしたほうが良い。企業の森づくりについては、まず従業員個人の参加を増やし、次に企業の参加につなげることを意識しておく必要があると思う。

委員：コミュニティサイクルについて、利用率や社会実験としての今後の取組について説明をいただきたい。

事務局：4月末の中間報告では、尼崎市内で12ポートから18のポート（駐輪場）に拡大していることが記されている。また、尼崎市内でコミュニティサイクルを実施している事業者が西宮市や大阪市内まで取組を広げているようである。今後の取組については未定である。

委員：補足説明をさせていただくと、利用率に関しては採算ベースをクリアするものとなっている。また、今回尼崎市内でコミュニティサイクルを実施している関連事業者が西宮市でもコミュニティサイクルを実施している。その結果、西宮から大阪までの自転車利用は増えているようであり、今後状況を見ながら取組について検討していきたい。

会長：尼崎の森中央緑地周辺などの不法駐車の問題に対する対策が、尼崎21世紀の森

づくり行動計画の「産業」に関連する内容につながればと考えている。最近トラックの運転手の労基法がより強化され、4時間に1回30分程度休憩する必要がある。このため、阪神高速道路のP.A.はいつも満車状態になっているようである。尼崎の森中央緑地をトラックの運転手が休憩等に利用できるようなれば、不法駐車対策になるかもしれない。

委員：チャンネルフライデーの件についてご報告させていただく。夜の運河の楽しみ方を提供することを目的としてカラオケ、運河クルーズなどを5月24日（金）、9月27日（金）に実施した。また、仮想通貨チャンネル（1チャンネル500円）で会場運営を行ったことが新しい取組である。

来年の、4月及び5月にもチャンネルフライデーを実施予定であり、参加する人が、企業対抗でカラオケ大会を実施するようにしたい。

委員：森の文化祭には、企業のブースが出展されている。また、当日は資料3に示されているように、企業が要望されているシャトルバスも運営している。このため、森の文化祭を通じて「企業の福利厚生事業の中央緑地における実施」などの森構想推進に向けた課題解決につなげていきたい。

また、バスなどのアクセス手段については、地域の人が利用できる交通手段の告知を含めて検討をお願いしたい。

会長：アメリカの公園では、トイレ、休憩場、資機材など仮設で活用できるものがパークセンターに設置されている。尼崎の森中央緑地においても、例えば運動会が行える資機材のセットをパークセンターの倉庫などに設置し、企業が尼崎の森中央緑地に来れば、運動会を開催できるように準備しておくことも検討いただきたい。

委員が企業の社員といっしょにビオトープの取組を十数年行っているのので、参考にさせていただきたい。

会長：事務局は尼崎21世紀の森づくりの取組とSDGsの関連性についてもう少し具体的に検討を行う必要がある。例えば今回の協議会で飲み物をペットボトルから紙パックに代えたことなど、既存の取組や今後予定している取組などをSDGsに関連させるよう検討を行ってほしい。

またこれは紹介になるが、兵庫県立淡路景観園芸学校が主催となり、11月30日（土）に県立美術館で「ファイブシーズン～5つの季節～」を上映する。内容は廃止された鉄道の高架部分を公園として再生したニューヨークのハイラインの植栽に関わった人物を紹介したものである。この人物は、美しく、人の目を引くような花などが咲かない郷土の植物のみを用いて、公園の植栽を行い、まちの活性化につなげている。このようストーリーを参考に工場エリアの再生に寄与してきた尼崎21世紀の森づくりの取組を進め、PRしていただきたい。

■閉会

以上